

こんにちは!

村立東海病院



ご存じですか？“ポリファーマシー（多剤服用）”

ポリファーマシーとは？

ポリファーマシーという言葉を知っていますか。最近ではメディアでも取り上げられていますが、日本語では、多剤服用（複数を意味する「poly」+ 調剤を意味する「pharmacy」）と訳されることが多いようです。

ポリファーマシーに明確な定義はありませんが、簡単に言うと、**必要以上の医薬品を使用している状態のこと**です。4～6剤以上の多種類の薬を服用するだけでポリファーマシーといわれることもあれば、内服薬の数に関わらず、似たような薬の重複や、適応外の処方指しを指していわれることもあります。



厚生労働省の発表では、「75歳以上の方の4割が、5剤以上のお薬を飲んでいる」との報告があります。高齢の方は、複数の疾病を抱えてしまうことが多いことから、その疾病ごとに薬が処方されることで、内服薬が多くなってしまいます。また、内服薬が多くなることで、それに伴う副作用が現れ、その治療のため、さらに処方される薬が増えてしまうことが考えられます。

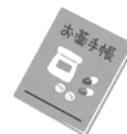
ポリファーマシーの問題点

内服薬が多いと何が問題なのでしょう。ある研究では、**6剤以上の内服薬を併用していると、薬の副作用の発生率が増え、また、内服薬が多いほど入院率が上がる、骨折が増える、身体機能・認知機能が低下する**などの報告があります。これらの原因としては、薬同士の相互作用により副作用が増えることが挙げられています。また、内服薬が多いことで飲み忘れが増えてしまうこともあり、必要な薬を内服できていないことも原因として考えられています。

一方で、このポリファーマシーに対して減薬を行った研究もありますが、**減薬することで予後が改善したというデータは、今のところありません**。そのため、減薬する場合も、不要な薬がないか、相互作用はないか、副作用などの害は出ていないかなどを確認して内服薬の調整を検討していく必要があります。

お薬に関心をもち、主治医や薬剤師に相談を！

内服薬は必要があって処方されているものです。ただ、複数の診療科を受診している場合は、処方薬の内容が重複する、薬物相互作用が生じる、などの可能性があります。これらを防ぐためには、使っている薬が把握できる**「お薬手帳」を有効に活用すると良い**でしょう。



ポリファーマシーの解決のためには、医師・薬剤師・医療スタッフも含め、**患者さんご自身にも、処方されたお薬に関心を持っていただくことが必要**です。処方された薬が、「どうして処方されたのか」「いつまで続けた方がいいのか」などの疑問や、「薬が飲みにくい」「薬の飲み忘れが多くなった」「薬を飲み始めてから発疹ができた」など、心配なことがありましたら、お気軽に主治医や薬剤師にご相談ください。

村立東海病院 内科医 立川 聖哉

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉総務課地域医療担当(☎287-0848)